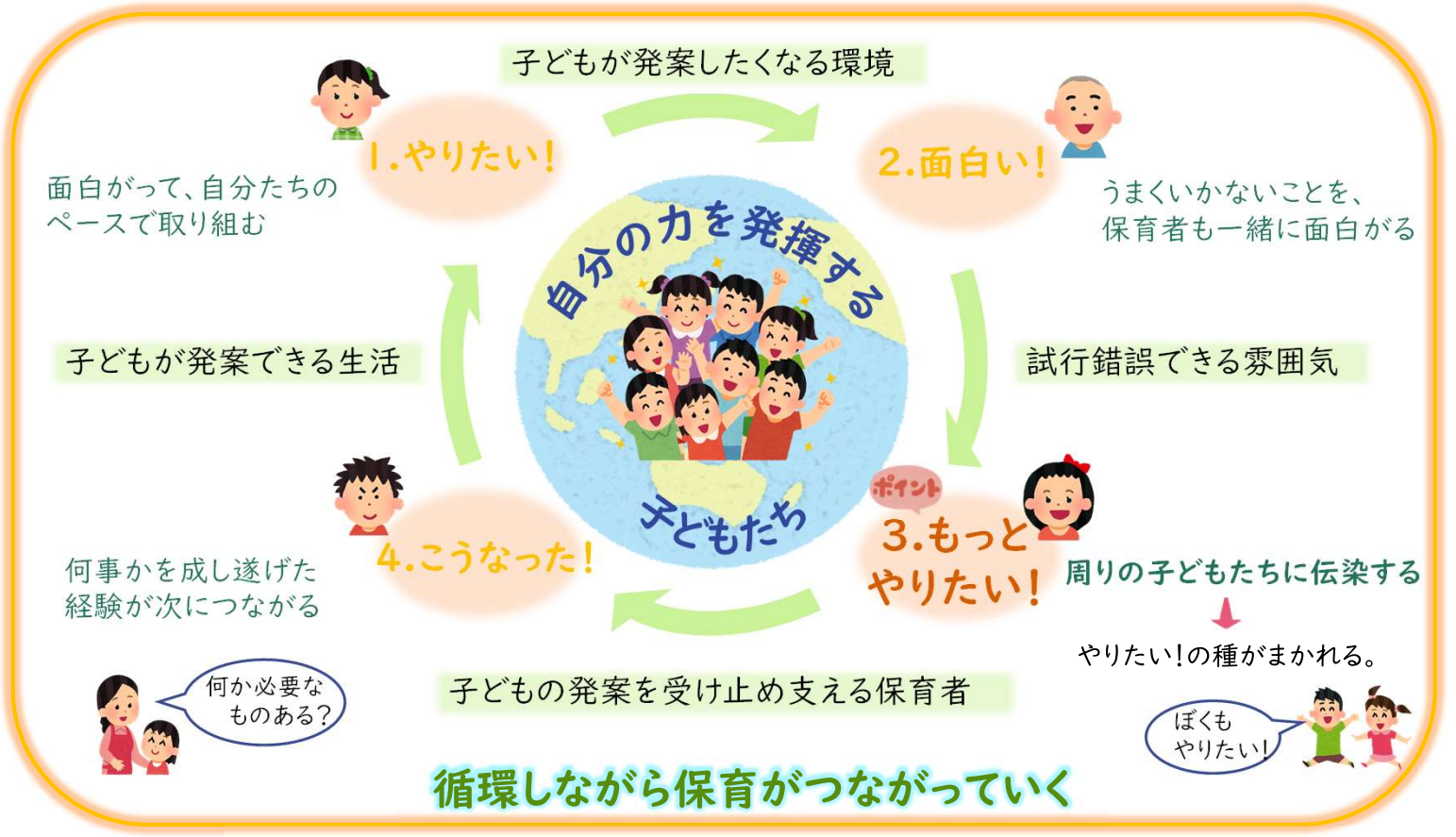


# ★「子ども主体」の芽を育む 思いをのびやかに発揮しあう保育



**子どもたちは、どんなことを「やりたい」と思っているの？**

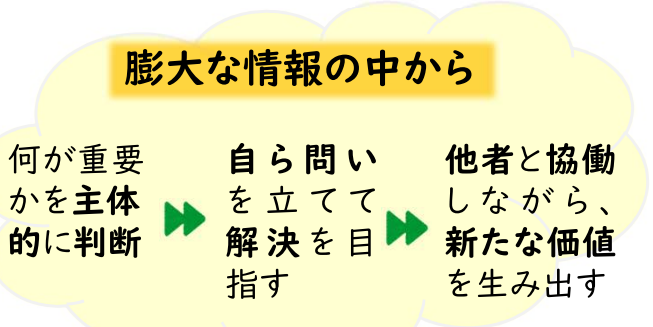
- 子どもたちの「やりたい」に目を止める
- 子どもたちの「やりたい」を引き出していく
- 保育者も「やりたい」を出して過ごす

保育者の頭の中に遊びの完成図があると、子どもたちの遊びを引っ張ってしまうことがあります。保育者は子どもたちのアイデアに感心し、サポート的に関わりましょう。



## ★なぜ、今「子ども主体」が重要なのか？

予測できない未来に対応するためには、社会の変化に主体的に関わり合い、その過程を通して一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、**よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していく**ことが重要



子どもたちは遊びの中で、この過程を経験しています

# ★ 幼児期の教育

## 幼児教育は環境を通して行う



◆子どもは「自ら」育つ  
子どもは、生まれたその時から主体的な存在

幼児が自ら積極的に、人やモノ、自然事象などの環境に関わり体験を重ねることで、生きる力の基礎が育まれるよう、計画的に環境を構成する

◆見て触れて、遊んで感じる！  
保育者は、子どもが感じていることを感じようとするのも大事

◆笑って、遊んで、うれしくなる  
子どもは「面白い」が好き  
その気持ちは、隣にいる誰かと響きあって、笑いが広がる  
笑いが広がってうれしくなる

◆子どもは、遊びを作り出す  
心が動き、実現したいイメージを共有する仲間がいると、遊びが生まれてくる

◆子どもは「探求」する  
子どもは、不思議を見つける天才！  
ゆっくり取り組める時間と場所と仲間がいれば、探求が深まっていく



# ★ 保育者の在り方

## 一緒に生きる

子どもが自分で始めたことを大切に  
にする。子どもが始めたことはまず大事にし、肯定し、それを共に味わい、一緒に生きる、それが育つ場である。

『天国の種』津守真

分かっていく姿勢から始まる

その時を楽しみながら、子どもの傍らにいる

感覚的な言葉で言える体験は重要

## センス・オブ・ワンダー

＝神秘さや不思議さに目を見はる感性＝

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。私たちの住んでいる世界のよろこび、感激、神秘を子どもと一緒に再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、少なくともひとり、そばにいます。

『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン

## 生命的応答

子どもの心もちは、極めてかすかに、極めて短い。かすかにして短き心もちを見落とさない人だけが、子どものそばにいる人である。

『幼児の教育』倉橋惣三

子どもの思いや不思議に寄り添う

# ★ 質疑応答

子どもの主体性を引き出したけれど……。ある程度、大人が用意しないと面白さが少ない気がして、大人がイメージを出しすぎてしまいます。



保育には、「○○しなければならぬ」はありません。子どもたちが、豊かな経験を得られるように、保育者が選択肢を投げかけたり、子どもに任せたりなど関わり方を変え、いろいろ試してみることが大事です。



# ★ 研修生の報告書より

知ることは感じることの半分も重要ではない。という言葉が心に残った。豊かな感受性を育てたいけるよう、世界の喜び、感激、神秘を子どもと一緒に再発見し、感動を分かち合える大人になりたい。(第1回)

これからの子どもたちは知識を礎にしながら、自らやりたいことを見つけて、友だちとの関わりの中で発見や面白さを感じていく。やりたいことがうまくいかず、考え試行錯誤する経験から、自ら考える力、学びへの育ちへとつながっていく。「もっとやりたい。」が実現できる環境づくりと受け止め支える保育者が重要であると学んだ。(第2回)